

# 四門宗開門の因縁

聖四門／新村紘宇二

1. 私が、北海道札幌市で「醜醜」の原型に近い「ヤング young」という素晴らしい健康食品に出会ったのは、昭和 61 年の春でした。
2. その頃私は、ヒグマの栄養源である「熊笹」が、イネ科の植物であり、且つ万人が強精剤として認めている、「行者ニンニク」がユリ科の植物である事から、この両者を精製し、微粉末（パウダー）にしてカプセル詰めにし、「イネユリ」という健康食品を作り、製造販売していたのです。
3. 当時、私は「新村資源効率研究所」（略称 NSK）を設立して、省電（コンバインドセービングシステム）の研究と健康食品の研究に没頭していたのです。
4. そんな折、前記 1 の「ヤング young」に出会い、この「ヤング young」が、仏教の經典／大般涅槃經に出ている「醜醜」を目指して生産された事を知りました。
5. 真宗西本願寺門主の大谷光瑞猥下、門下の正垣一義先達が、「醜醜」が乳酸菌からなる食品である事を突き止め、正垣一義先達は、昭和 24 年国会にて「仏教原理の応用範囲」（乳酸菌の応用の重要性）について講演し、更に、翌年の昭和 25 年「寿命論と有効菌」と題して 2 回目の講演を行っている事などを知り、私は「醜醜」の研究に心血を注ぐようになりました。
6. そして、「醜醜」が乳酸菌から出来ている事には納得出来たのですが、どうしても納得出来ない事が一点だけあったのです。それは「乳から酪を」の「乳」が、光瑞猥下も正垣先達も、又全ての「醜醜」研究の先学者達の「乳」が「牛乳」を指しており、「豆乳」ではなかったのです。
7. 仏教は、「五戒」（不殺生・不偷盜・不邪淫・不妄語・不飲酒）を大原則としており、とりわけ「不殺生戒」は全仏教徒がこぞって遵守しなければならない「金科玉条」なのですが、大乘仏教が成立した頃には、すっかり遜色してしまい、「地獄の沙汰も金次第」となって、金持達が地獄に行きたくないの、自分達を救済する方便として、大きな船を作り、善悪を十把一絡げにして、極楽往生への「タダ乗り」を企んだのが「大乘仏教」なので、「醜醜」が出ている大般涅槃經も、所詮は大乘仏教經典であり、釈尊の「如是我聞」（釈尊の言った言葉を直接弟子が聞いたもの）とは一切関係ない經典で、それ程信を置けるものではないのです。
8. つまり、牛乳は牛の赤子がのむものであり、人間が横取りしてのむものではないので、私は、「醜醜」の元蘇は、先学者達がいうような牛乳でなく、「豆乳」であるはずだと確信し、「豆乳」での「醜醜」作りに専念したのです。
9. 「豆乳」は豆腐の素であり、大豆から作るものです。しかし、豆腐は「豆乳」の段階で「おから」と分別され、むしろ栄養分は「おから」に取られ、豆腐の方は余り栄養がないのです。この栄養のない豆腐作りの「豆乳」では、丈夫な乳酸菌は共生培養出来ないと思い「全乳」の「豆乳」を作ることにしたのです。
10. 上等の十勝大豆を、成分を飛ばさないようにして乾燥し、更に、成分を飛ばさないようにして微粉末・パウダーにしたのです。
11. その大豆パウダーに、私が北海道北檜山で発見した、人間の血液ペーハー（pH）と同じ pH7.4 の「天然水」（低温殺菌）を注入し攪拌し、100%大豆の生の「豆乳」を作ったのです。その 100%大豆の生の「豆乳」に各種乳酸菌を混入し共生培養したのです。
12. 単に各種乳酸菌だけでは、なかなか思うように共生培養出来なかったの、私は、酵母菌を入れました。この酵母菌を入れた事によって、なぜか！各種乳酸菌はものすごい勢いで活発に増殖し、濃厚な乳酸菌エキスが出来たのです。

13. 私は、これこそが本物の「醍醐」だと確信し、資本金一千万円で、有限会社 醍醐製菓を設立したのです。
14. 私が作った「醍醐」は、まず第一に、牛乳でなく 100%大豆の「豆乳」であること、第二に、注入する水は水道水でなく、人間の血液ペーハー(pH)と同じ pH7.4 の「天然水」(低温殺菌)を使用すること、第三に、各種乳酸菌だけでなく酵母菌を混入すること、第四に、加熱加減を微細にコントロールし、湯葉状の皮膜を厚くして、菌たちが逃れられるようにしたことです。
15. 今でも、私の作った「醍醐」こそ本物の「醍醐」であると確信しておりますが、この私の作った「醍醐」が、果たして「衆病皆除」の妙薬に値するものなのか！という問題です。私はこの「醍醐」エキスを濃縮にして、会員販売されている「ヤング young」と同じように、塩素の入っていない水や、味噌汁や、その他ありとあらゆる調理時に、味の素のように、ほんの一滴たらしめて食することを勧めたのですが、どうも私は、研究開発して作るのは得意ですが、売るのは苦手で商売採算が分からず、この「醍醐」のお宝も、現在お蔵入りの状態なのです。
16. そんな訳で、私は「醍醐」作りに心頭を滅却していた頃、仏教を知ったのです。それから段々自分でも恐ろしくなるぐらい、仏教にはまっていき、真剣に仏教僧になることを昼夜考え、ついに矢も楯もたまらず、出家するにいたったのです。
17. 私が出家したのは、52歳の時、平成4年春でした。あちこちのお寺を訪ねて「出家」を請いましたが、全て断られ、「寺男なら」と言ってくれたお寺さんが一軒あっただけです。私は止む無く「十牛舎」という草庵を作り、托鉢で糊口を凌ぎました。世間一般で言う「乞食坊主」です。小乗仏教の教え通り「雨安居」を守り、雨の日と午後 は托鉢をせず、午前中の9時頃から11時頃までの2時間厳守で、差し障りの無いよう「般若心経・摩訶般若波羅蜜多心経」を誦経しながら主に駅頭で乞食(こつじき)をしたのです。網代笠に「十牛舎」と墨書した乞食坊主を見たことがあればそれは私です。主に東海道線の駅頭で、雨の日を除き午前のみ托鉢していたのです。
18. 数年間、駅頭で雨の日を除き午前のみ托鉢した時間を除き、古本屋通いを続け、托鉢で得たお金(浄財)の殆どを仏教関係の書物や資料の購入に使ってしまいました。お陰様で多少の仏教勉強をさせて頂きましたが、なぜか「ひろさちや」先先の書物が読み易く、大変重宝させて頂きました。
19. しかし、勉強すればする程、現在の大乗仏教のおぞましが目につくのです。前記7の通り、たった五つの「五戒」(不殺生・不偷盗・不邪淫・不妄語・不飲酒)すら守らない、守ろうとすらない日本仏教に嫌気が差し、釈尊が修行したインド霊鷲山に行き、現地にある「祇園精舎」(日本山妙法寺・開祖藤井日達猊下)に挂錫し、釈尊が修行した霊鷲山に通い、釈尊と同じように霊鷲山の山頂で思いっきり空気を吸い、釈尊と会話をし、釈尊が座した洞窟に下って同じように座し、同じように釈尊と会話をしたのです。寺(祇園精舎・日本山妙法寺・開祖藤井日達猊下)に戻っては、藤井日達猊下の御霊と会話をし、日本仏教の無残さを訴えたものでした。
20. 大乗仏教の「悪辣」さは以下の通りなのです。不殺生戒等を守っていないのです。
  - ①釈尊は、「絹草をもって虚飾せず」を実行した人です。絹は生繭の蛹を殺して紡ぐのです。生き物を殺して絹糸を紡ぎ、絹衣を作るのです。日本の墮落僧侶達は、皆得意となって、最上の絹衣である金襴緞子の袈裟を纏って愉悦しています。又、若い牛を殺して革を剥ぎ、太鼓や靴や鞆にしては、それを自慢しては喜んでいきます。
  - ②肉食魚食を断ち、菜食に徹している僧侶は殆どいません。食肉妻帯を是とし、酒と煙草を常用し、小乗仏教の「真実」を「虚実」にして吹聴して憚らない。あまつさえ小乗仏教の「四諦八正道」を盗み歪め不偷盗の限りを尽しているのです。
  - ③「雨安居」を一切無視し、托鉢をせず、檀家に寄生し、葬式仏教をして高額な戒名料



をむしり取る。墓場を造営し、高額な墓地や墓石、供養料を掠め取る。

21. 私は、前記 20 の日本仏教を信じることは出来ません。こんな仏教では誰一人として救うことなど出来ません。織田信長が天台宗の総本山比叡山延暦寺を攻めましたが、その堕落さは今の方が遥かに酷いのです。その証拠が各宗派の空寺の数です。僧侶の生活の糧は「托鉢」であって寺という伽藍の経営ではないのです。今、日本では二万以上の空寺が蜘蛛の巣となっています。住職のなり手がありません。檀家がいらないから食っていけないという、とんでもない似非仏教の屁理屈です。
22. 本物の「釈迦仏教」は「小乗仏教・上座部仏教」であり大乘仏教ではありません。
23. 出家したい人は誰でもが出家でき、誰でもが沙門(僧侶)になれるのです。そうして本物の「釈迦仏教」の教えは以下のような教えなのです。
  - ①私物欲を持たない、私物欲を持ってはいけない。
  - ②私領欲を持たない、私領欲を持ってはいけない。
  - ③私腹欲を持たない、私腹欲を持ってはいけない。たった三つの「私欲の禁止」であり「私欲の昇華」の教えなのです。
24. 私物欲は、つまるところ、ことごとく自分の「私物」にしたいという欲望で、一人占めの独占欲の源泉となり、ふつふつと欲望が高まり、とどまるところを知らず、多生の「生命」も自分の「私物」にしたくなるのです。本物の「釈迦仏教」には「私物観念」はないのです。
25. 私領欲は、つまるところ、ことごとく自分の「私領」にしたいという欲望で、一人占めの独占欲の源泉となり、ふつふつと欲望が高まり、とどまるところを知らず、多生の「生命」が住む「大地」も、自分の「私領」にしたくなるのです。本物の「釈迦仏教」には「私領観念」はないのです。
26. 私腹欲は、つまるところ、ことごとく自分の「私腹」を肥やす為に横取りしたいという欲望で、一人占めの独占欲の源泉となり、ふつふつと欲望が高まり、とどまるところを知らず、多生の「生命」の生活の糧も、自分の「私腹」を肥やす為に横取りしたくなるのです。本物の「釈迦仏教」には「私腹観念」はないのです。
27. 生きていくということは、牧場主は「家畜」を売買しなくてはならず、漁師は「魚類」を売買しなくてはなりません。生き物も生きていくために殺さなくてはなりません。これを「煩惱即菩提」というのです。決して濫りに殺生をするのではないのです。「不殺生戒」とは、濫りに殺生することを禁止しているのであって、それは時間と時代と共に何れ解決できる問題だからです。家畜肉や魚肉類の代わりに植物肉が生産できる時代が来る、ということです。
28. 人間として普通の一家団欒、家族団欒を願うなら、私物欲、私領欲、私腹欲の三大私欲を、潔く捨てなければなりません。なぜなら、この三大私欲は、摩擦と軋轢と衝突の種を撒き散らすからです。結果は、喧嘩となり、抗争となり、戦争へと、災の輪は業火となり、全ての人類を、全ての生類を焼き殺してしまうからです。
29. そんな訳で、今一度心新たに本物の「僧侶」(人々の伴侶)と「僧伽」(道場)を目指して一念発起、「**神仏教 四門宗 天の川霊園/祖神廟**」を開門することにしました。もちろん「伽藍」もなければ「墓所」もありません。大本山・総本山に相当する聖山は、銀河の星座である「天の川」であり、寺院霊園は、*net cemetery* の「霊園霊廟・寺院僧伽」です。
30. 3次元時代の「寺院僧伽」は、絢爛を誇る神殿でもなければ寺院でもないのです。地球の大地には限りがあり、権力の象徴でしかない神殿寺院、霊園墓所の独占は、もう許されません。無物で生まれた人間は、無物で死んでいくのが**正道**なのです。
31. 人々が**正道**に生き**正道**に死すことに気づかない限り、私達人類に未来はないのです。

合掌



# 神仏教

## 四門宗

### 極楽会

宗旨	
名称	神仏教 <small>しんぶつぎょう</small> 四門宗 <small>しもんしゅう</small> 極楽会 <small>ごくらくかい</small>
高祖	神仏 <small>sinbutu</small>
宗祖	聖 <u>四門</u> <small>hijiri simon</small>
宗祖俗名	新村 紘宇二 <small>niimura kouji</small>
開教開門	平成 22 年 (2010 年) 7 月 7 日
聖川	天の川
場所	銀河
御本尊	父母 <small>ふぼ</small> / 御先祖様 <small>ごせんぞさま</small> / 祖神汎仏 <small>そしんはんぶつ</small> / 蘇摩天女 <small>そーまてんによ</small>
照破呪言 <small>しょうはじゆげん</small>	唵摩訶呪大破天咩 <small>おんまかじゆだいほてんらん</small>
根本法典	聖命法 <small>しょうみょうほう</small>
教義	聖命法解義
八戒一	不殺生
八戒二	不墮胎
八戒三	不虐待
八戒四	不領得
八戒五	不独占
八戒六	不麻葉
八戒七	不肉林
八戒八	不贅沢
死訓一	人生は涅槃の道の一里塚 老い老い楽し死もて極楽
死訓二	捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ三世の川
死訓三	小義を以て生き 大義を以て死す
死訓四	生前密葬・活仏往生
死訓五	安心死・尊厳死
生訓一	一日五回 背筋を伸ばせ 胸を張れ
生訓二	一日四回 遣る気を起せ 鎬を削れ
生訓三	一日三回 飯を食え 遠慮して食え
生訓四	一日二回 面を洗え 牙を研げ
生訓五	一日一回 尻を拭け 己で拭け